

# 青梅市文化財ニュース

第190号

平成15年8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室（青梅市駒木町1-684 0428-23-6859）

## 東京都レッドデータブックのクワガタムシ

「レッドデータブック」とは、絶滅のおそれのある野生生物のリストです。日本版の「日本の絶滅のおそれのある野生生物」は、1991年までに環境庁によりまとめられています。東京都では、この東京都版ともいふべき「東京都の保護上重要な野生生物種(1998年版)」(以下「都RDB」という。)が作成されています。

この概要は、文化財ニュース第170号(平成13年2月)に、「東京都レッドデータブックの蝶」を掲載した際に触れていますので参考にしてください。第180号(平成14年10月)では、「東京都レッドデータブックのトンボ」を掲載しました。今回はクワガタムシについて掲載します。

東京都には、島嶼(とうしょ)部を除き、14種のクワガタムシが生息しています。これら島嶼部を除いた分布パターンで区分してみると次のようになります。

暖地性	平地～丘陵	やや山地性	山地性
ネブトクワガタ ヒラタクワガタ	コクワガタ ノコギリクワガタ	ミヤマクワガタ スジクワガタ	ヒメオオクワガタ アカアシクワガタ オニクワガタ ツヤハダクワガタ ルリクワガタ コルリクワガタ ホソツヤルリクワガタ マダラクワガタ

印は、青梅市に生息するクワガタムシで計6種になります。市内の丘陵地で最も普通に見られるのはコクワガタとノコギリクワガタです。ミヤマクワガタは以前に較べると減少していますが、まだ珍しいというほどではありません。スジクワガタも時折見かけます。ヒラタクワガタは稀な種で、過去に採れたのは数頭程度しか知りません。アカアシクワガタは御岳山では珍しい種ではありませんが、丘陵地でも稀に見かけることがあります。この他にも山地性のクワガタムシが2～3種御岳山に生息している可能性が残っています。

印は、都 RDB の本土部に掲載されたクワガタムシです。7 種が掲載されています。区部、北多摩、南多摩、西多摩に地域区分され、それぞれの地域ごとに絶滅の危機の程度に応じたランク付けが行われています。掲載されたクワガタムシのランクはいずれも C ランク(注 1)で、生息環境の変化により絶滅の危機に瀕(ひん)したり、危機が増大することが危惧される種ということになります。一覧表にすると以下ようになります。表中の「 」は、「個体数の多い種。比較的普通に見られる種。」の評価です。

	区部	北多摩	南多摩	西多摩
ツヤハダクワガタ				C
ミヤマクワガタ			C	
オニクワガタ				C
コルリクワガタ				C
アカアシクワガタ		C		
スジクワガタ			C	
ヒラタクワガタ		C	C	

ヒラタクワガタとアカアシクワガタは、西多摩が空白になっていますが生息が確認されていますので訂正されることになるでしょう。7 種を分布パターン別に分けてみると、「暖地性」がヒラタクワガタ 1 種、「やや山地性」がミヤマクワガタとスジクワガタの 2 種、「山地性」がアカアシクワガタを含む 4 種になります。

青梅市に生息する 6 種のクワガタムシのうち 4 種が都 RDB 種になります。特徴は、ミヤマクワガタやスジクワガタのような「やや山地性」のクワガタムシが、北多摩や南多摩に較べて相対的に良好な状態で残っていること、奥多摩山地と接続していることからアカアシクワガタのような「山地性」のクワガタムシが生息していることにあります。それだけ青梅の自然はまだまだ豊かだということになります。

最近、クワガタムシ採集のために幹を傷つけられたクヌギやコナラの木を見かけることがあります。場所によっては形成層をひどく傷つけられたために枯れてしまった木を見かけることもあります。クワガタムシの生息環境まで破壊してしまうような行為は、ぜひ慎みたいものです。

注 1...A ランク(絶滅の危機に瀕している「絶滅危惧種」)、B ランク(絶滅の危機が増大している「危急種」)、C ランク(生息環境の変化により A ランクや B ランクへの移行が危惧される「希少種」)、D ランク(野生で絶滅と判断される種)

(文責 久保田 繁男)